

## 1-(6) 湿地性カラー産地の維持発展に向けて

### — 出荷前進化と新規参入者の定着支援 —

#### 1 活動のねらい

君津地域の特産花き品目である湿地性カラーを今後も維持と発展をさせるため、安定生産と出荷の前進化を目的として改植や病害防除を推進した。また生産者からは早生で疫病に強い品種の育成が望まれており、農林総合研究センターと連携し有望系統の現地適応性試験を実施している。さらに、新規就農者の定着に向けて経営支援及び栽培技術指導を行う。

#### 2 課題の背景

豊富な地下水を活用した湿地性カラーが君津市の小糸及び小櫃地区を中心に栽培されている。栽培面積 6.6ha、販売金額 1.4 億円（平成 29 年実績）で、全国的にも有数の産地であるが、単価の下落が原因となり年々販売金額が減少傾向にある。また定植から年数が経過して生産力が低下したほ場や、疫病や軟腐病等の病害で株が衰退するほ場も多い。そのために開花が遅れ切り花単価が高い年内の出荷量が減少し、平均単価を下落させている。また生産者の高齢化や施設の老朽化によるリタイアや規模縮小もみられ、産地規模を維持するために出荷前進化や株当たりの切り花本数の増加、新たな担い手の確保及び育成が必要となっている。

#### 3 普及活動の経過

##### (1) 安定出荷と出荷期の前進化

###### ア 改植の実施

栽培講習会や個別巡回において、生産力の回復を狙った改植の必要性や改植時の株の保存や殺菌方法について支援や情報共有を行った。

###### イ 新品種候補の現地適応性試験

昨年度に選抜した有望系統を新品種候補とし、今年度は小糸地区と小櫃地区に計 4 か所の試験展示ほを設け、定植 2 年目の生育と切り花品質を月 1～3 回調査した。さらに来シーズンからより詳細な試験ができるよう試験展示ほを 4 か所増設した。

##### (2) 新規参入者の定着支援

新規参入者に対して重点的に巡回指導を実施した。また幅広い知識や生産者同士の繋がりを深めてもらうことを目的とし、農業経営体育成セミナーを含め各種研修会への参加を促した。

#### 4 普及活動の成果

##### (1) 安定出荷と出荷期の前進化

###### ア 改植の実施

今年度 5 a から 10 a 程度の改植が行われている。株を掘り上げた後の殺菌や保存方法を検討し、施した病害対策の経過を観察していく。

## イ 新品種候補の現地適応性試験

有望系統の試験ほ場を生産者に見学してもらうことで、有望系統の現状を周知及び確認を行い新品種に対する理解を深められた。また増設した試験ほ場の株も活着し始め、より詳細な調査が可能となる予定である。

### (2) 新規参入者の定着支援

対象 14 戸のうち 2 戸での採花が軌道に乗り始め、出荷本数の増加が見られている。巡回の際、株の生長やほ場の変化を定期的に記録し共有することで課題や疑問を把握し対応をした。また青年農業者会議の参加を支援し、発表や意見交換会を通じて今後の営農に役立つ情報を掴み理解を深めてもらった。



写真1 改植を実施したほ場



写真2 増設した新品種試験ほ場



写真3 新規参入者の新植ほ場



写真4 ほ場巡回による勉強会

## 5 今後の発展方向と課題

引き続き出荷前進化と新規参入者の定着支援を行っていく。産地維持とカラー生産での収益を向上させるため産地分析を行い、生産者や関係機関との情報共有を密にしながらか策を練っていく。新品種候補の品種化が決定しており販促研究会の発足や栽培マニュアルの作成等で支援をしていきたい。来年度君津市農業協同組合が新規就農者等研修施設の事業を開始するため新規就農希望者がより集まると予想されるので、産地一丸となって事業を進められるよう支援をしていきたい。

## 6 担当者

南部グループ：柴崎 正博、北澤 悠里香、宇津木 育実

## 7 協力機関

君津市農業協同組合、君津市、農林総合研究センター暖地園芸研究所野菜・花き研究室、農林水産部流通販売課首都圏マーケティングセンター